塔（勉強会資料）

光明 361

現代の大臣やローマ法王が我々の塔に車で乗り付ける姿が目に浮かぶようだ。コミカルとドラマチック、どっちがいい？ とにかく、モンゴル人は知覚の神経が切れていないので、もっと堂々と行動していることがわかるだろう。

アグニヨガ 615

教えは、塔の石を組み立てるように送られる。石を一度に流し込むと、塔にはならず、山ができる。

無限Ⅱ 125

精神が穀物の中に明らかにした力を積み重ねで囲むと、志を放棄することになる。蓄積されたものが重くなり、精神が塔にアクセスできなくなるのである。したがって、肯定を知る者は、自我の変容によってのみ前進する。

無限Ⅱ 359

「火」の強烈な探求者には、微妙な感覚と感触が内在している。このようにして、宇宙的思考は微妙な心理的意識を貫くことができるのである。微細な知覚と粗大な知覚を認識することが、人類の進歩の第一歩となる。このように、塔に向かう道中では、精神的な道の微妙な違いを意識しなければならない。

ハート 254

岩の上に築かれた強固な土台の上に、塔が乗っている。勇気の塔は、心の岩によって確認された強固な意識の上に立っているのである。しかし、心臓は何に対して自分を試すのだろうか？ ヒエラルキー上だけである。マスター（師）と会話することに心を慣らそう。古代の長老のように、心にマスター（師）との交わりだけを知らせ、高貴な方との心の会話に些細なことが入り込まないようにするのだ。

ヒエラルキー 287

献身は疑いの反対語で、疑いは無知にほかならない。つまり、献身は悟りの上に成り立っている。このように、知識の正統性は、献身の相対的存在なのである。騙されやすさでも、軽薄なのでもなく、堅固で不動なのである。もちろん、献身の塔は努力と決意によって築かれるものであり、裏切りだけが献身の塔を壊すことができるのである。でも、献身の塔は貴重である！ このようなアシュラムは、磁石のように強力なハートを引き付け、精神性の温床となる。この塔の近くでは、物質的な性質さえも変容してしまうのである。